

# あややにも踏まれ

## コンサート会場は御殿跡

日本の各地で市町村の合併が急激に進んでいます。姫路市も2006年3月27日、隣接する香寺町、夢前町、家島町、安富町の4町と合併します。「政令指定都市を目指す」ということが市民に対する謳い文句となっています。新「姫路市」の誕生は、西播磨の地域にとって歴史的な出来事になることは間違いありません。この一大事を控えて官民が何を企画するのか興味深いところでありましたが、まずは得意のイベントが実施されました。

今回のイベントは新姫路市誕生記念と銘打ち、8月20日に姫路市出身の人気歌手あややこと、松浦亜弥とその党派のタレントたちによるコンサートが開催されました。翌日の新聞報道によれば、コンサートには1万人以上の人たちが集まったといいます。すでに前日夕刻頃、市中を松浦亜弥の顔入缶バッチをリュックにつけた兄さんらが歩いていましたから、観客の何人かは姫路駅近辺に宿泊してくれたとみられます。中心市街地活性化を進める市にとっては後援した甲斐があったというものです。

そして、このイベントがもし成功と評価されたとしたら、今後、姫路城がイベント会場として利用される機会が、ますます増えることでしょう。



上：ステージ裏は白いシートによる高い壁が出現。姫路城の漆喰に合わせてくれたのだろうか。右に見えるのが西の丸、力の櫓。

左：武蔵野御殿跡から大天守を望む。たくさんのパイプ椅子がすでに並べられ、ステージの準備が進む。大音量であややの曲が流されているところ。この日、満足のいく天守の遠景写真が撮影できた観光客は何人いただろう。

<右頁モノクロ写真は昭和修理工事記録写真>

姫路城周辺では毎年いくつかのイベントが開催されています。あややのコンサートでは姫路城三の丸跡の広場が会場となりました。

姫路城が大きなイベントの主会場として頻りに使用されるようになったのは、どうも「シロトピア博」が開催された1989年頃からのようです。その成功の記憶が強いためか、以来、ことあるごとに姫路城がイベント会場として使用されるようになりました。とくに三の丸広場は、大天守を背景に会場設営ができるということから「人気」があります。本来は村の秋祭りである、いわゆる「灘のけんか祭り」に代表される屋台の練り合わせを伴う祭礼が、毎年初夏に三の丸広場で実施されるようになったのも「シロトピア博」の延長線上にあるとみられます。

イベント会場として利用される三の丸広場は、もともとは城内の中心施設があったところでした。当たり前のことなのですが、天守群の建築の印象が強烈的ために姫山の山下に城郭施設がいくつも存在していたことを知らない人が少なくないのです。

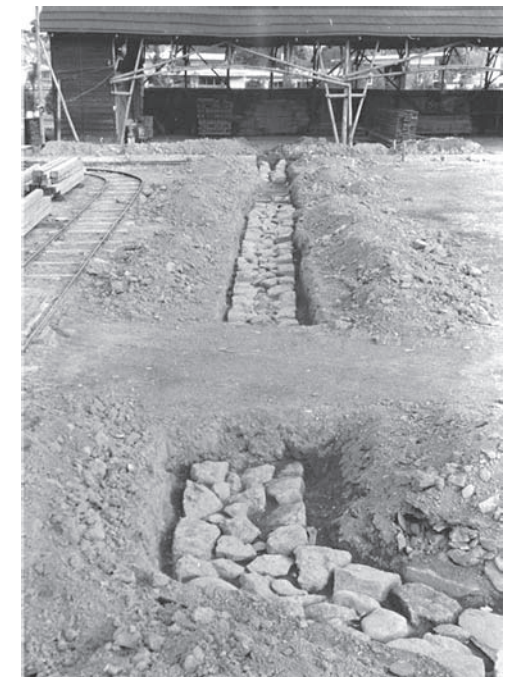
三の丸は「三」という数字の序列からすると本丸や二の丸に比べて低位の曲輪とみなされそうですが、姫路城ではもっとも重要な施設が集中していたところなのです。広場西側の高台一帯には政庁となる御殿があり、江戸時代、ここを「本城（ほんじょう）」とか「御城」などと呼んでいました。その呼称からも姫路城における役割や重要度は明らかです。高台の下にある現在の三の丸広場には「向屋敷（むこうやしき）」という御殿とそれに付属する大きな庭園があり、そこは「本城」とは対照的に下屋敷的な施設で、連歌や茶会なども開かれ、藩主の高尚な芸術性が反映される空間でもありました（「城踏」No.1を参照）。明治初期には飾磨県庁として転用された時期もあったようですが、陸軍の駐屯に伴う兵舎建設のために撤去されてしまいました。現在では芝生が植えられているだけで、当時の姿を想起させるものは何一つ残っていませんが（橋本政次は『姫路城史』で、三の丸跡の片隅に庭石が残存していたことを記しているが、現在は行方不明）、観客席やステージの地下には、写真のような御殿遺構の一部がいまでも埋蔵されている可能性が非常に高いのです。



2000年、野猿がコンサートを行ったときの様子。他にも姫路城スーパーライブなんてのもあった。



右：屋敷の土塀基礎（前頁写真のステージのあたり）  
 上：石積遺構（三の丸広場東側辺）。池に伴うものか？



"Shiro Fumi" No.58 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.